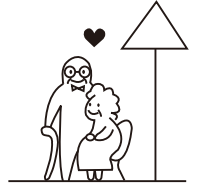




高齢者の住まいを考える

Home for Senior Citizen



* 研究概要

現在日本の高齢者施設は、たくさんの種類に分かれています。それらは、どこも学校や病院のような配置計画で、生活をする空間とはいえないように思います。

本研究は、認知症高齢者のための『グループホーム』と、自活できる高齢者を対象とした『高齢者住宅』の二つの施設をそれぞれ考えたものです。生活能力や生活スタイルが違ふことで、空間がどのように違ふかを探り、それぞれの高齢者にとって、住み良い環境を提案します。

My project consists of a home for elderly Dementia patients, and a home for the naturally aged.

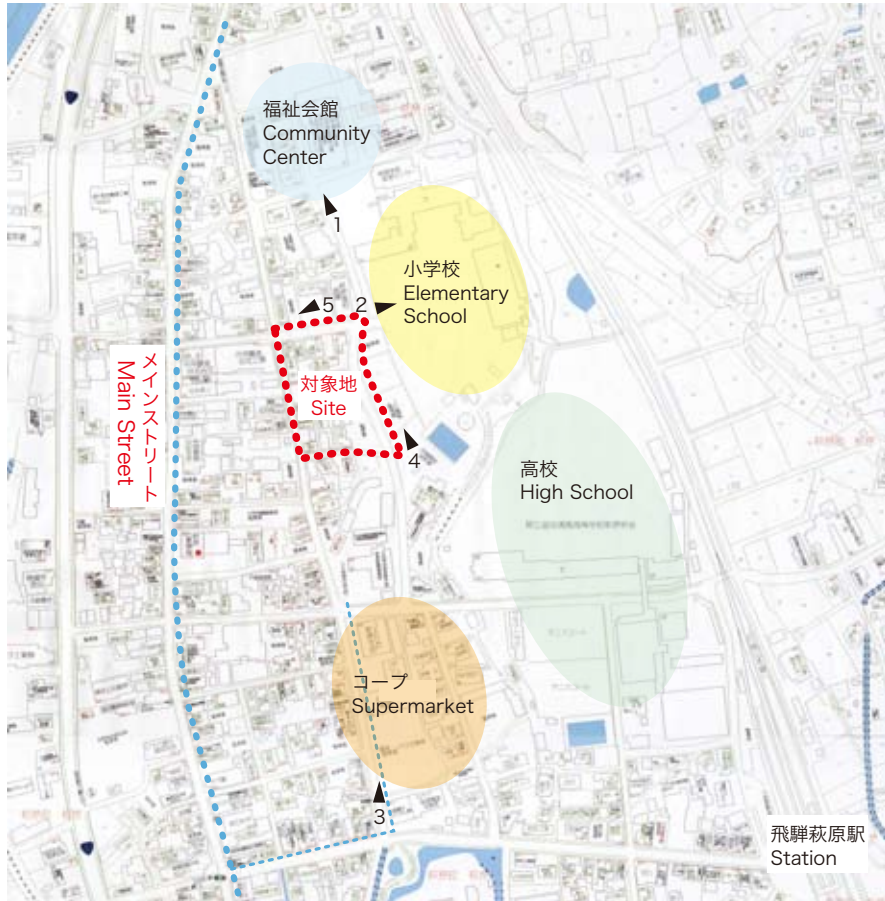
I have researched about how the space should be different according to the senior citizen's abilities and lifestyle, between the Dementia patients' home and the home of the naturally aged.

My aim was to design, with kind consideration, an environment suitable for accommodating the elderly, where they can live more comfortably and happily.

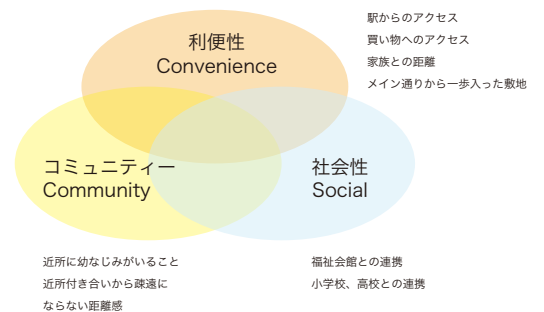


* 敷地調査

岐阜県下呂市萩原 Hagiwara, Gero City, Gifu, Japan



岐阜県下呂市には、この地域で生まれ育ち、高齢になるまでの大半をここで生活してきた人たちが多く住む地区です。近所には、幼なじみや同級生が住んでおり、向こう三件両隣という、地域コミュニティが、今もなお残っています。近年、高齢化率が増加し、高齢者対策も問題視されていますが、知った人ばかりがいる住み慣れた環境で晩年を送ることができるのは、とても恵まれた環境だと思います。地域との接点を大切に、計画を考えたいと思います。



▲500m x 500m

グループホーム (認知症の高齢者対応)

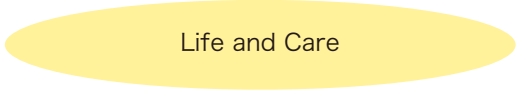


* グループホームとは

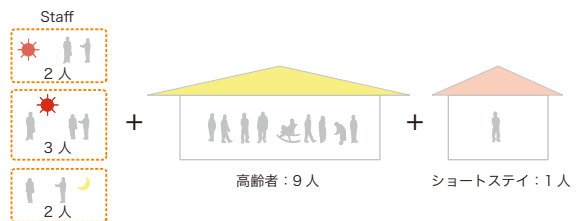
グループホームとは、認知症高齢者のための共同生活住居です。認知症のケアを行うとともに、日常生活をスタッフと一緒に送ります。スタッフは常時3人が対応し、9ユニットとショートステイ1ユニットあり、10人が一つ屋根の下で生活します。日常生活の他には、リハビリや音楽療法など、認知症ケアも行います。

個々の住戸が独立して配置され、それらを屋根が一つに繋がります。皆が寄り添うような形をイメージしています。一人で外に出ることが、安全上困難な高齢者のため、基本的には施設がされますが、できるだけ内部を開放的にすることで、徘徊の欲求を軽減させるように中庭を配置します。

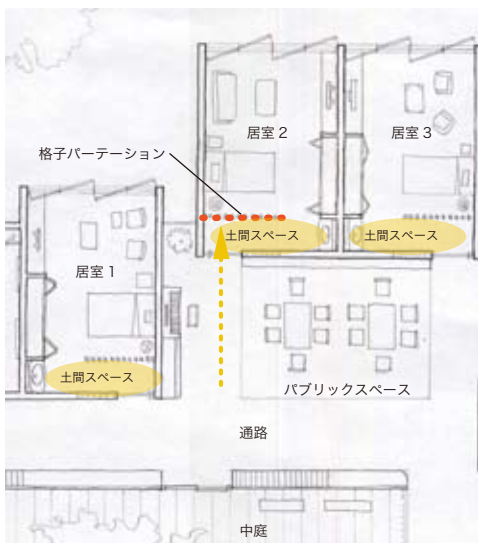
地域の人の理解と協力が大切になります。グループホーム(住居)の他にレクチャーやリハビリを行う交流棟をもうけ、地域とのつながりを持たせます。



* 人数構成



* 居室デザイン

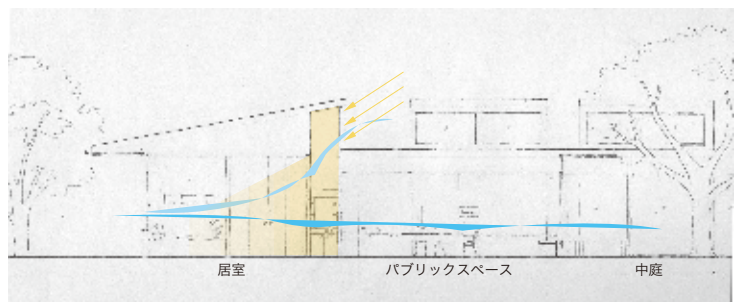


居室面積 24㎡
 土間スペース
 格子パーテーション
 洗面台 収納
 窓 風が直接当たらない

居室平面図

認知症高齢者にとって、空間の欠落が混乱を招きます。普段の生活で使われてきたように、土間空間は、外(パブリックスペース)と居室(プライベートスペース)をつなぐ役割を果たします。

また、パブリックスペースから、居室内が直接見れないように、土間空間と室内の間に、格子のパーテーションを設けます。このパーテーションは、緊急時には移動することができ、収納可能です。



居室断面図

高齢者住宅 (自活できる高齢者対象)



* 高齢者住宅とは

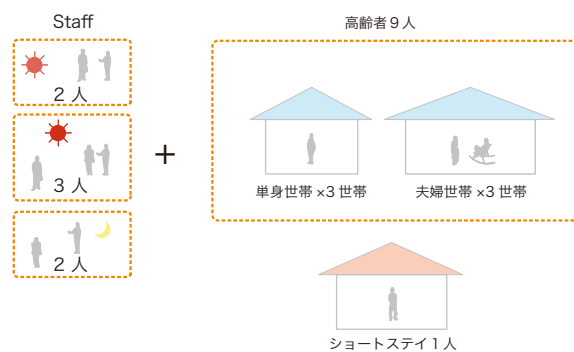
高齢者住宅とは、自活可能な高齢者が、自分らしく生活ができるように、サポートをする住宅です。基本的には、身の回りのことは自分で行い、必要に応じて、スタッフにサポートを頼みます。

住居は、単身者用が3世帯、夫婦世帯用が3世帯、ショートステイが1戸で合わせて10人で暮らします。住戸の他に、皆が集まる共有棟と浴室棟があり、住人は自由に行き来することが出来ます。

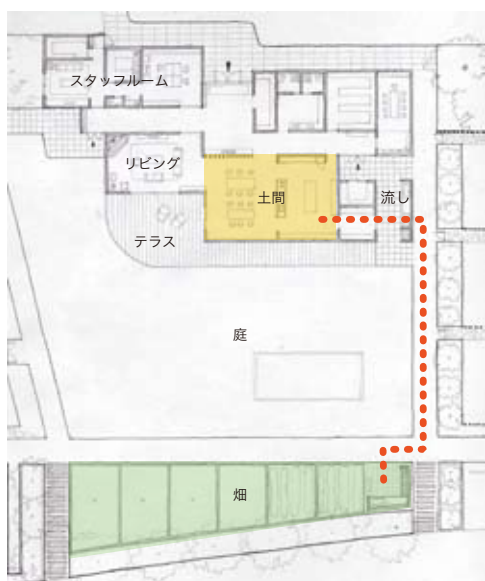
ここでは、一人一人に畑があり、ここで出来た野菜を共有棟の土間に持ち寄り、料理をします。また、地域の方に向けた市を行うことで、高齢者施設が地域との接点を持ちます。

Life with Regional Community

* 人数構成



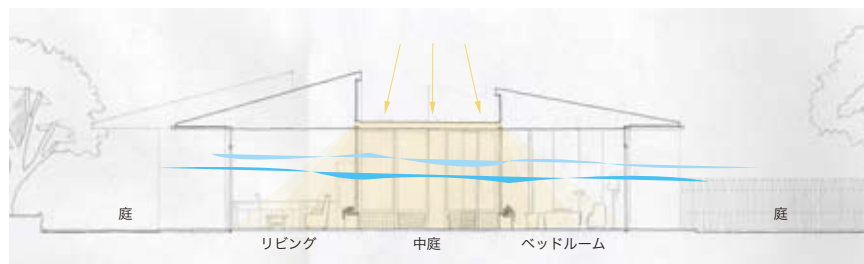
* 畑と共有棟 (土間)



* 居室デザイン (中庭)

ここでは土間を、パブリックスペースとして捉えます。土間は、各高齢者が食材を持ち寄り、一緒に料理をするだけでなく、生活の様々なシーンが展開されます。レクチャーや体操、市を開いたりお祭りが開かれたりと、地域の集会所の役割を果たします。

各居室は、独立して配置し、それぞれ中庭を持ちます。住人同士で過ごす時間が多い分、この中庭は自分だけのプライベートが確保された外部空間となります。



共有棟平面図

居室断面図